厚生労働省指針13物質
文部科学省基準6物質
非配合

環境配慮型
艶　消
防藻・防カビ
水　性
F★★★★

トップコートレス1液水性反応硬化型アクリルシリコン樹脂断熱塗材

断熱コートEX

トップレス　外断熱　内外装　結露抑制　防水
遮熱　屋根　工程短縮　防音　低臭

あの断熱コートに待望のトップレスタイプ新登場!!屋根の工程が短縮!

断熱コートEXはシロキサン結合とHALS・UVAの複合効果により、トップコート不要の耐候性を実現しました。優れた断熱・遮熱性能が長期間にわたって維持できます。

断熱コートEXは、従来の断熱コートでは5工程必要とされていた屋根の工法が3工程に短縮できます。

適応下地

屋根面

鋼板屋根、トタン、波形スレートに最適です。

※コロニアルへの施工は、塗膜ふくれ、はがれ、建物内部の木腐を生じる可能性がありますので避けて下さい。

一般建築物 内・外壁面

コンクリート、モルタル、PCa板、ALC板、スレート板等、ケイカル板 等

※窯業系サイディング及びALCの場合、下地の影響によっては、塗膜ふくれ、はがれを生じる可能性がありますのでご注意下さい。
湿気が溜まりやすい部位への施工の場合、脱気盤を使用した特殊通気工法が必要となります。
弾性系スタッコ面の使用は、塗膜ふくれの原因となりますので避けて下さい。

その他

原料貯蔵タンク 等にも断熱コートと同様にご使用頂けます。

※100℃を超えるようなタンクでの使用は避けて下さい。

容量・荷姿

荷　姿	10kg　石油缶
色　相	白・淡彩色・中彩色・濃彩色

塗料性状

試験項目	試験結果	試験条件
外　　観	着色粘稠液	
粘　　度	38,000mPa·s	BH型粘度計、23℃
密　　度	0.75	JIS比重カップ、23℃
貯蔵安定性	異常なし	20-60℃ 10サイクル

塗膜性能

試験項目	試験結果	試験条件
鏡面光沢度	5以下	入射角60度
隠ぺい率(白)	90%	150μm
伸　び　率	200%	23℃
促進耐候性	良好	S-W-O-M 1,000時間
熱伝導率	0.12W/m·K	プローブ法 QTM-D3
透　水　性	0.18ml	JIS A6909透水性B法

東日本塗料

標準工法(屋根面)

適応下地：鋼板、トタン、波形スレート

※コロニアルへの施工は、塗膜ふくれ、はがれ、建物内部の木腐を生じる可能性がありますので避けて下さい。
※トップコート仕上、艶有仕上の場合はスーパートップ遮熱、遮熱シリコントップⅡを施工して下さい。

鋼板屋根面：推奨仕様

工程	材料名	使用量/回(kg/㎡)	上塗可能時間(23℃)	備考
下　塗　り	遮熱サビ止めプライマー	0.16	6～48時間	A液:B液=5:1(重量比)の割合で計量、ソルエポシンナーにて0～10%希釈、混合、攪拌後、中毛ローラー、ハケにて塗布。
主材塗り1	断熱コートEX	0.3～0.5	12～72時間	水道水にて下記用量希釈し、エアレススプレー〈口径0.4mm程度〉・プランジャー式または高粘度品塗装可能ダイヤフラム式(3～5%希釈)、またはリシンガン自在タイプ〈口径4mm程度〉(5～7%希釈)にて塗布。
主材塗り2	断熱コートEX	0.4～0.5	12～72時間	

鋼板屋根面：ローラー仕様

工程	材料名	使用量/回(kg/㎡)	上塗可能時間(23℃)	備考
下　塗　り	遮熱サビ止めプライマー	0.16	6～48時間	A液:B液=5:1(重量比)の割合で計量、ソルエポシンナーにて0～10%希釈、混合、攪拌後、中毛ローラー、ハケにて塗布。
主材塗り1	断熱コートEX	0.3～0.5	12～72時間	水道水にて3～5%希釈し、多孔質ローラー(細目)にて塗布。
主材塗り2	断熱コートEX	0.4～0.5	12～72時間	

波形スレート屋根面：推奨仕様

工程	材料名	使用量/回(kg/㎡)	上塗可能時間(23℃)	備考
下　塗　り	カチオン浸透エポプライマー	0.1～0.15	2時間以上	原液のまま、中毛ローラー、ハケにて塗布。
主材塗り1	断熱コートEX	0.3～0.5	12～72時間	水道水にて下記用量希釈し、エアレススプレー〈口径0.4mm程度〉・プランジャー式または高粘度品塗装可能ダイヤフラム式(3～5%希釈)、またはリシンガン自在タイプ〈口径4mm程度〉(5～7%希釈)にて塗布。
主材塗り2	断熱コートEX	0.4～0.5	12～72時間	

※各塗料の使用量は標準値です。屋根材の形状(倍率)、下地の状態によって塗回数・使用量が増加する可能性があります。

標準工法(建物内外壁面)

適応下地：コンクリート、モルタル、PCa板、ALC板、スレート板、ケイカル板 等

※弾性系スタッコ面への使用は、塗膜ふくれの原因となりますので避けて下さい。

壁紙面(塩ビクロス)：スチップル(小波)状仕上

工程		材料名	使用量/回(kg/㎡)	上塗可能時間(23℃)	備考
下　塗　り		カチオン浸透エポプライマー	0.1～0.15	2時間以上	原液のまま、中毛ローラー、ハケにて塗布。
主材	基層塗り	断熱コートEX	0.35～0.5	4～72時間	水道水にて0～3%希釈し、多孔質ローラー(細目)にて塗布。
	模様塗り	断熱コートEX	0.35～0.5	4～72時間	

※壁紙のはがれ、めくれ、浮き部は専用の接着剤を使用して補修して下さい。
※壁紙の接着力が低下している場合、塩ビクロスの張り合わせなどの端部で塗装後に浮きが発生する恐れがありますので、事前に接着剤で補強(補修)しておくことをお勧めします。

施工上の注意事項

屋根面

■塗装環境

①被塗物の表面温度が5℃以下、湿度80%以上の場合は、施工は避けて下さい。
②塗装後翌日まで降雨、降雪等の心配がある場合には、施工は避けて下さい。
③冬期の施工は夜露、結露の発生が考えられますので、午後3時以降の作業は避けて下さい。
④夜露、高湿度等で被塗物が結露している場合は、ウエス等で拭き取り、乾燥させてから塗装して下さい。密着不良の原因となります。
⑤弾性塗膜のため、積雪寒冷地の勾配屋根への使用は塗膜破断の原因となりますので避けて下さい。
⑥沿岸部等、海塩粒子の影響が考えられる場所への施工は、状況によっては耐候性が著しく低下する恐れがありますので、スーパートップ遮熱を上塗りとして使用することをお勧めします。

■下地

⑦旧塗膜の密着不良部、表面の油、ゴミ、ホコリ、コケ等は、高圧水洗(14.7～19.6MPa)にて取り除いて下さい。
⑧高圧水洗で落としきれない、旧塗膜の密着不良部および錆発生部分は、電動工具、手動工具を用いて劣化した塗膜を除去し、発錆部は、2種ケレンを行って下さい。
⑨油脂分などの付着物は、溶剤で拭き取り、清浄な面にして下さい。
⑩旧塗膜(水性、一液溶剤型、二液反応型アクリルウレタン系等)が全面に残っている場合の改修には、事前に塗膜の種類を確認し、下塗材の選定を行って下さい。
⑪旧塗膜が2層以上ある場合は、塗膜欠陥の原因となりますので、旧塗膜を完全に除去して下さい。
⑫下地調整は、耐久性を高める重要な工程となりますので、入念に処理して下さい。

■養生

⑬エアレス塗装等、吹付け塗装の場合は、塗料の飛散に十分注意して下さい。付近の建物、自動車等はあらかじめ養生して下さい。軒先等は圧力を低下させ、あて板などで養生し、塗装して下さい。
⑭塗料のミストが自動車、ガラス、アルミサッシ等に付着した場合は、すぐにウエス等で拭き取って下さい。特に自動車に付着した場合は、ただちに水洗いして下さい。
⑮乾燥した塗料のミストは、ラッカーシンナー等で傷つけないよう拭き取って下さい。

■塗装

⑯『塗料』の標準使用量は、屋根の形状、素地の劣化度合により変化します。
⑰『塗料』は、ご使用前に電動攪拌機等で十分に攪拌してから塗装して下さい。
⑱各工程とも上塗可能時間内であっても、ホコリ等が塗膜に付着した場合は、密着不良の原因となりますので、除去して下さい。
⑲下塗材に溶剤型塗料を使用する場合の1日の塗装工程は、最大2工程までとして下さい。1日の工程が、それ以上の場合には、溶剤保留によるフクレ(サンプリスター)の原因となります。
⑳強風(風速5m/s以上)時の施工は塗膜ハレの原因となりますので避けて下さい。
㉑標準使用量、塗装間隔及び規定塗り回数を厳守し、一度に厚塗りしないで下さい。標準使用量、塗装間隔及び規定塗り回数で仕上げる方が、塗り上がり、耐久性とも向上します。
㉒断熱コートEX塗装後、十分に乾燥し、強度が出現していることを確認してから、次工程を行って下さい。また、断熱コートEX塗装後、硬い靴での歩行や無理な負荷を与えると塗膜破壊の原因となりますので、靴の裏面に布テープを貼るなど、十分注意して下さい。
㉓塗装時、塗装後に塗装面に重量物を置かないで下さい。また、吹き付け時の無理なホースの引き摩りは、塗膜破壊の原因となりますので、十分注意して下さい。

警告表示

①容器からこぼれた場合には、砂などを散布した後、処理して下さい。
②取り扱い後は、手洗い及びうがいを十分に行って下さい。
③目に入った場合には、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
④誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
⑤よくフタをし、一定の場所を定めて貯蔵して下さい。
⑥子供の手の届かないところに保管して下さい。
⑦塗料、容器を廃棄する場合は、産業廃棄物として処理して下さい。

⚠ ご注意　ご使用前に各商品の容器に記載されている注意事項をご確認下さい。　詳細な内容が必要な場合には、安全データシート(SDS)をご参照下さい。

●お問い合わせは・・・

東日本塗料株式会社

本　　社/〒124-0006　東京都葛飾区堀切3-25-18　TEL.03(3693)0851(代)　FAX.03(3697)2306
埼玉工場/〒347-0017　埼玉県加須市南篠崎1-13　TEL.0480(65)1515(代)　FAX.0480(65)1518
仙台営業所/〒983-0045　仙台市宮城野区宮城野1-4-20　TEL.022(291)7372(代)　FAX.022(291)7320
新潟営業所/〒950-0871　新潟市東区山木戸3-7-9　TEL.025(273)5749(代)　FAX.025(274)6730
静岡営業所/〒422-8037　静岡市駿河区下島128-1　TEL.054(238)8061(代)　FAX.054(238)8063
北海道出張所　TEL.090(8586)2214　FAX.03(3697)2306

※製品改良のため、予告なく仕様、性能、カタログ内容を変更する場合があります。
※諸官公庁等の特記仕様がある場合には、それを最優先して下さい。
URL http://www.hnt-net.co.jp　CATALOG NO.6　'18.09.3000